



1986.12.5  
能藤玲子創作舞踊団  
第19回公演「風に聴く」  
北海道厚生年金会館大ホール

2017.5.13  
能藤玲子ダンスパフォーマンス  
「風に聴く」  
神奈川県立近代美術館葉山  
\*写真提供 神奈川県立近代美術館

表紙作品は、砂澤ビッキが「風に聴く」の初演を観るために音威子府から札幌へ移動中の車内で、能藤玲子をイメージして描いた作品（能藤玲子蔵）

NOTO, Reiko / SUNAZAWA, Bikkky

札幌文化芸術劇場  
hitaru  
SAPPORO CULTURAL ARTS THEATER

2019年 10月18日(金)  
宵 | 開場18:30 開演19:00  
\*上演時間約40分予定

10月19日(土)  
午 | 開場13:00 開演13:30  
夕 | 開場17:00 開演17:30



創作・演出 能藤玲子 / 舞台美術 砂澤ビッキ

風に聴く  
— みたびまみえる —

会場 | クリエイティブスタジオ〈札幌市民交流プラザ3階〉  
〒060-0001 札幌市中央区北1条西1丁目  
札幌市営地下鉄「大通」駅 30番出口から西2丁目地下歩道より直結

料金 | 一般前売 3,000円 当日3,500円 U25前売 2,000円 当日2,500円  
\*税込・全席自由・整理番号付 \*開場時にチケット券面に記載された整理番号順にご案内します  
\*U25 | 1994年以降にお生まれの方（未就学児を除く）であれば学生に限らずご購入いただけます。  
取り扱いは市民交流プラザチケットセンター窓口、道新プレイガイド窓口。ご購入、ご来場時に生年を証明できるものをお持ちください。

発売	メンバーズ先行発売 2019年 7月27日(土) 10時より Web会員限定 ●札幌市民交流プラザメンバーズサイト <a href="https://sapporo-cp-members.jp/">https://sapporo-cp-members.jp/</a> DM会員限定（会員カードをご用意ください） ●市民交流プラザチケットセンター窓口 （札幌市民交流プラザ2F 10:00-19:00休館日を除く） ●道新プレイガイド ☎ 0570-00-3871 （道新本社1F 10:00-18:00日曜定休）	一般発売 2019年 8月3日(土)10時より ●札幌市民交流プラザメンバーズサイト <a href="https://sapporo-cp-members.jp/">https://sapporo-cp-members.jp/</a> ●市民交流プラザチケットセンター窓口（札幌市民交流プラザ2F 10:00-19:00休館日を除く） ●道新プレイガイド ☎ 0570-00-3871（道新本社1F 10:00-18:00日曜定休） ●ローソンチケット 〈Lコード12289〉 ☎ 0570-084-001 ●チケットぴあ 〈Pコード495-958〉 ☎ 0570-02-9999 *プラザメンバーズ先行発売で売切れた場合は、一般発売はございません *ご購入方法により手数料がかかる場合がございます *車椅子席ご希望の方は道新プレイガイドへお問い合わせください ☎ 0570-00-3871 *未就学児入場不可
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

チケットに関するお問い合わせ | 道新プレイガイド ☎ 0570-00-3871 (10:00-18:00日曜定休)  
公演に関するお問い合わせ | 札幌市民交流プラザ 劇場事業課 ☎ 011-271-1950 (9:00-17:00休館日を除く)

### hitaru オフィシャルスポンサー

ニトリ、アイングループ、イオン北海道、CO・OP共済、札幌田中病院、TAIYO GROUP、きのとや、札幌丸井三越、北央病院、北海道ココ・コーラボトリング、北海道新聞社、北海道ブブ、ホテルモントレグループ、練成会グループ

あいプラン、MORIHICO、伊藤組土建、岩倉建設、岩田地崎建設、大通り矯正歯科、ボルボ・カー 札幌、札幌駅前通まちづくり会社、札幌大谷学園、札幌大通まちづくり会社、札幌市交通局、札幌振興公社、札幌都市開発公社、サッポロホールディングス、ANAクラウンプラザホテル札幌、札幌マニティ・ウイメンズホスピタル、ジェイ・アール北海道バス、数島屋、じょうてつ、ANA、大和証券、さっぽろ東急百貨店、日本航空、富士メガネ、北海道エアシステム、北海道科学大学、北海道中央バス、北海道電気保安協会、丸彦渡辺建設、三井不動産リアルティ札幌、よつ葉乳業、北海道ガス、倉澤高圧コンクリート、旭イノベックス、遠藤興産、SAPICA、三精テクノロジーズ、大成建設、大丸札幌店、どんぐり、日建設計、北海道グリーンメンテナンス、豊建商、氏家記念こどもクリニック、岡本内科クリニック、クリーンアップ、ホクリョウ、北洋銀行、北海道銀行、朝日新聞社、阿部小児科医院、アムテック、アルシス、石狩すずらん内科、岩本・佐藤法律事務所、ウエス、AIRDO、おおしま内科胃腸科クリニック、柿崎歯科、河上水産、TAT札幌、グリーンネットワークス、ケープラス・ロジ、札幌商工会議所、ジャパンテクニカルソフトウェア、サツイベ、しんどう医院、すずらん乗馬クラブ、蘇春堂形成外科、タイムズ24、みよしの、なんごう耳鼻咽喉科、ニューオータニイン札幌、ネクステップ、福住泌尿器科クリニック、北海道熱供給公社、北海道マツダ、ほりい総合法律事務所、マウントアライブ、明治安田生命、山二、ゆうらく、リビングワーク、六書堂、和らいふ、北海道放送、札幌テレビ放送、北海道テレビ放送、北海道文化放送、テレビ北海道

宣伝美術 | 文編 monpaig

主催 | 札幌文化芸術劇場 hitaru・札幌文化芸術交流センター SCARTS (札幌市芸術文化財団)  
助成 | 文化庁文化芸術振興費補助金 (劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術振興会  
後援 | 札幌市、札幌市教育委員会





33年の時を隔て札幌の地で、  
砂澤ビッキの作品が生む森厳な空間のなか、  
能藤玲子が“みたび”舞う。

女の生き方をテーマとしていた能藤玲子が  
新たに“自然との対話”を求め、  
「風に聴く」と題した公演を行ったのは、  
1986年12月のこと。

そのとき舞台美術として使われたのが、  
当時、同じく“風”をテーマに自然を見つめていた  
砂澤ビッキの代表作  
「四つの風B」(後に「風に聴く」と改題)であった。



その後、神奈川県立近代美術館葉山の  
砂澤ビッキ展会場での  
ダンスパフォーマンス(2017年5月)を経て、

能藤玲子創作舞踊研究所開所60年、  
砂澤ビッキ没後30年となる今年、  
2人の表現が“みたびまみえ”、響き合う。

出演  
能藤玲子  
稲村泰江  
五十嵐里香  
東佐由理  
伊藤葉子  
齋藤千春  
伊藤有紀  
(能藤玲子創作舞踊団)

# 風に聴く

## 能藤玲子 NOTO, Reiko

1931年網走市生まれ。6歳から9年間日舞藤間流に入門。1949年網走高女卒、網走市第2中学教員。1951年現代舞踊家・邦正美氏に師事。1959年札幌に創作舞踊研究所を開所。88歳の現在まで札幌で定期公演33回の他、東京などで新作を次々発表。芸術祭優秀賞、札幌市民芸術賞、現代舞踊フェスティバル優秀賞、北海道文化賞、松山バレエ団芸術賞、江口隆哉賞など受賞多数。海外公演もニューヨーク、ギリシャ、パリ、モスクワなど多数。



## 砂澤ビッキ SUNAZAWA, Bikky

1931年、旭川生まれ。1952年、阿寒湖畔に移る。その後、鎌倉にて澁澤龍彦らと交友するとともに、モダンアート協会展を中心に作品を発表。1959年に旭川に戻り、1967年に札幌にアトリエを構える。1978年末から音威子府村箴島の小学校廃校をアトリエとし、豊かな木材資源をもとに、ダイナミックな造形の大作を制作。1983年10月から3ヶ月間、カナダのプリティッシュ・コロンビア州に滞在。1989年1月、57歳で逝去。



撮影 | 井上浩二

### 「風に聴く —みたびまみえる—」公演に寄せて 札幌文化芸術交流センター SCARTS プログラムディレクター 吉崎元章

舞踊と彫刻とがこれほどまでに響き合うものなのか。一昨年に神奈川県立近代美術館葉山での公演を観たときの衝撃が忘れられない。砂澤ビッキ展の会場で、木彫の大作を縫うように行われたダンスパフォーマンス——。ダンサー6人が時に静かに時に激しく吹き荒れる風の化身となり、能藤玲子が四季の変化を司る精霊や神のように、ゆっくりとしかし全身にエネルギーを充満させて作品の間を移動しながら静かに舞う。それは、砂澤ビッキの作品のもつ世界観と見事なまでに共鳴し、能藤の醸す王者の風格は、砂澤のそれと重なり合うものでもあった。

能藤玲子が、砂澤ビッキの彫刻を舞台美術に用いて「風に聴く」を初演したのは、1986年12月のことである。砂澤にとっても、「風」は晩年の重要なテーマであった。それは、四季の象徴であり、人間にとって安らぎにも脅威にもなる存在として、正に自然そのものとらえていた。奇しくも同じ時期に「風」と向き合っていた二人の表現が融合した舞台であったのだ。

砂澤ビッキの日記には、すでにその10年以上前の1975年7月に、「静の彫刻と動の舞踏を合成による展開をできぬものか」と能藤と会談したことが記されている。長年の夢が叶った公演に感動した砂澤は、その晩寝ずに長い障子紙に延々と描いたドローイングを、翌朝早く能藤のもとに持参したという。その共振のほどは、それまで「四つの風B」と称していた作品名を、後に公演タイトルと同じに改題していることからもうかがえよう。

このたび能藤玲子が私たちの提案に応え、彫刻《風に聴く》とかがわる新作に“みたび”挑むこととなった。同じ年に生まれ、40歳代から知遇を得ていたという二人の表現が、札幌においては実に33年ぶりに“まみえる”のである。

舞台と客席が近い会場で、能藤の渾身の新作を間近に観ることができる貴重な機会でもある。“空間形成としてのダンス”を探求する能藤の現代舞踊と、舞台上に配された砂澤ビッキの彫刻がつくりだす立体造形としての空間と気配。それらが奏でる緊張感に満ちた時空を多くの人に体感していただきたい。